

LOHASでSHAREできる町づくり

(都市と田舎の共生をめざして…)

わたくしが住んでみたい町。

その町について1枚のイラストを書いて見ました。田園風景に囲まれた街の絵です。

都市と田舎が空中で1つになって若者と高齢者が共にちからを合わせていきいきと生きている姿をイメージしてみました。

この町は都市と農村(田舎)を1つの組み合わせにしています。

それは 若者と高齢者が仲良く共生しているコミュニティです。

では、何故このような組み合わせをテーマにしたのか。それは都市と田舎、若者と高齢者、それぞれが抱えている問題を少しでも解決できないかと思ったからです。では、それが何なのかというところから見てまいりましょう。

都市の抱える問題点

1. 正規雇用の減少
2. ニート・フリーターの増加
3. ワーキングプアの増加
4. 鬱や切れる、パニック障害など精神的病(やまい)の増加
5. 行き過ぎた消費社会
6. 知識重視型教育のひずみ
7. 効率最優先が生むストラクチャリング
8. コミュニケーション障害
9. 食、礼儀、ことばのみだれ
10. 多重債務
11. 格差社会

田舎の抱える問題点

1. 過疎化
2. 農家の後継者(担い手)の不足
3. 高齢化
4. 医療、行政サービスの低下
5. 自然環境の悪化
6. 資金の不足
7. 輸入農産物の増加に伴う農業収入の低下
8. 税負担の増加
9. 弱まる経済力

つぎにこの離れた2つの地域が抱える問題をどうすれば解決できるのか考えてみました。

今まで都市と田舎は それぞれが抱える問題を個別で解決しようとしていました。ところが、この2つをセットにして考えてみるといろいろな可能性がみえてきました。

1.【働く環境について】

高齢者と若者の居場所を交換してみましょう。

<農村(田舎)や現場に若者を> <都市またはオフィスに高齢者を> 主に配置します。

ちから溢れる若者が率先して農業や土木で生き活きと働き 都市の便利な環境を高齢者に渡してしまうのです。

デジタルテクノロジーにより作業が簡素化したオフィスワークは 力の無い高齢者や障害者にもじゅうぶん適応できるようにします。(この仕組みづくりは若い技術者のプロジェクトが高齢者や障害者に業務を渡す事を前提に開発し続けます。)

歳をとり、肉体的に弱くなっても働く場所があること。それはそこに住む人達に圧倒的な安心感を与えます。税金に頼ることなく能力を発揮し続け、永く納税する側でいることができます。生涯現役も可能です。都市は産業のソフト部分を担い、ちからの弱い人達を守り続ける場所になっていきます。

ただし、都市の仕事はワークシェアリングを取り入れます。分かち合うことで町の運営が成り立つようになります。(シェアの精神はこれからの環境の変化に適応するにはとても大切な価値感です。)

「この住みやすい場所を守りたい…」と言う意識が全体に働きます。町への愛着が生まれます。

若者は農地で米、野菜づくりに励み自然のありがたさ、命の尊さを若いうちに学びます。

中学、高校、大学でも就農期間のカリキュラムが組まれるようにし、モデル農業の開発も行います。

(じつは現在でも若い人達の就農希望者は意外と多いのです。)

食育、地産地消、食料自給率向上にも繋がっていくでしょう。またなによりも、農業を通じチームワークの大切さを知ります。(知識重視型教育は限界が見えてきています。)

【生活環境について】

都市部は高齢者や障害者にやさしい街づくりを心掛けています。

街には病院や介護ステーションを充実させバリアフリーを徹底させます。文化サークルをたくさんつくりコミュニケーションが自由にとれる場を提供します。

(ちからの弱い人達の孤立をつくらぬよう町全体で取り組んでいます。)

地球温暖化防止の為、電力は風力、水力、海洋温度差の発電で賄える量で運用し、町の全員がスローライフを心掛けます。

環境の変化に対応し、より循環できる山や土地の改良・整備をちから溢れた若い人達が率先して行います。そうすることで地元意識を育てることが出来ます。中山間部への植林や棚田作りは水を蓄え水不足、水害対策にもなります。(中山間部の農業の継続が経済的に難しくなっています。中山間部の農作業は効率は悪いのですが、寒暖の差が大きく水もきれいで質の高い農作物が収穫できます。効率重視で排除してしまうにはもったいない自然遺産です。)

当然、街と田舎のアクセスも公共の交通機関が充実しており、往来は便利にします。

高齢者と若者の交流も盛んに行なわれ、農業・土木については高齢者が講師となり、IT・デジタル技術

については逆の立場で入れ替わり情報の交換も活発です。

あらためて・・・人間は生身です。

からだが自由に動くのは若いときだけです。おもいきり動けるうちにやっておかなければならないことはいつの時代も動きを伴うものでした。(効率優先の便利な社会がそのことを少し見えづらくしていたのかもません。)そして歳をとりやがて動けなくなること、一人になるかもしれないことを恐れる気持ちは誰にも共通してあります。この共通して恐れているものを解決する救済のシステムが実現できたら・・・というところから発想しました。

この50年間で、都市が経済的成長を遂げるにつれ若い労働力は農村から離れ、担い手も不足し過疎化が深刻です。歳をとって農作業ができなくなれば、やむを得ず農地を手放し都市に移る人も多いようです。手放された農地は荒れ、美しい農村の風景は変わりはてます。

いっぽう都市の労働環境は従来の仕組みではうまく運用できておらず、ニート・フリーターの増加、ワーキングプアなどのさまざまな問題を抱えています。

働く人の精神状態もストレスにより疲弊し、毎日を越えていくことで精一杯です。

この両者の現象はそれぞれ個別ではなかなか解決できていません。ITの発達で情報は離れた場所でも共有することが簡単になりました。あとはいろいろな分かち合いを見つけて交換してみることです。

今回の提案は町づくりとして取り扱うには少し枠が 大きすぎるかもしれません。新しい市町村合併のかたちを思い描いた空想の世界です。

しかし、同じようなことは小さなコミュニティでもできそうな気がします。ちょっとまわりを見まわしてみてください。ちょっとした交換がおきればその方が互いに幸せになれてごく自然なことと思えるようなことがたくさんあります。みんなが共通して困っているのに解決されていないこともたくさんあります。

それを仕事にしてしまえば仕事は無限につくりだせます。

その為には、みなさんの'困った'が解決できる人達に届くことがとても重要です。

まず 誰もが'困った'をいつでも発信できる仕組みをつくることもとても大事ですね。

以上、わたくしの住んでみたい町についてでした。

